

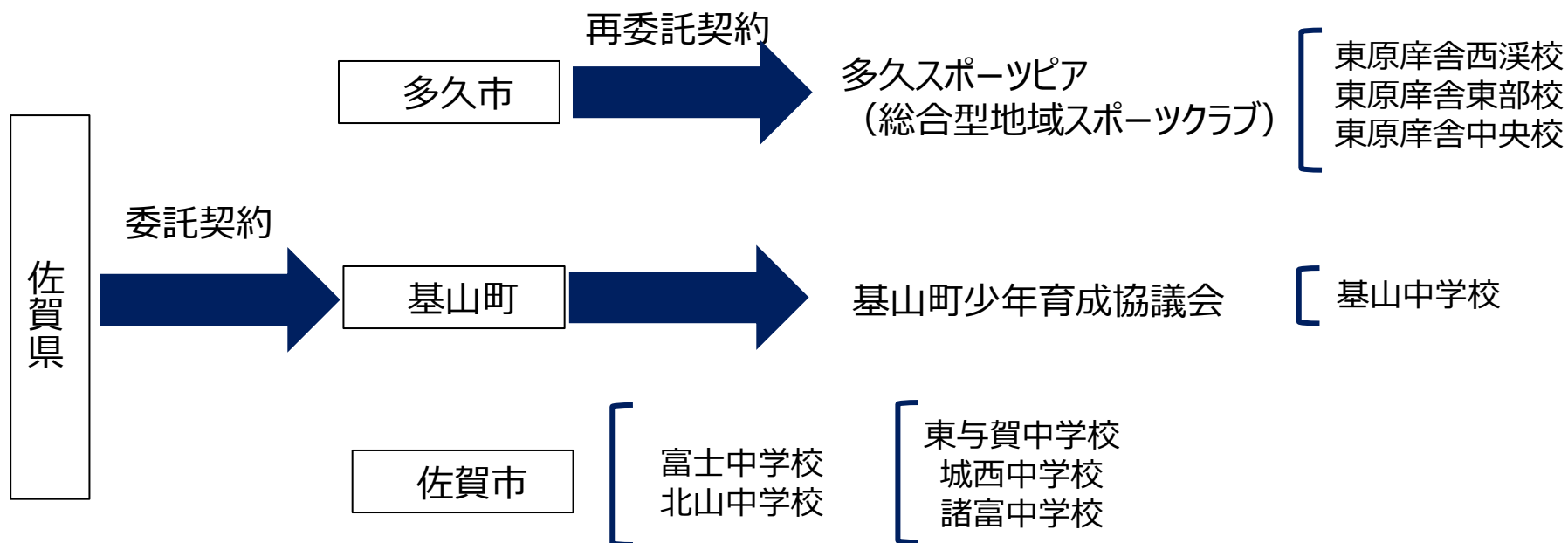
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

佐賀県

●地域における現状・課題

- 佐賀県では、10年後、中学1年～3年生の生徒数は、現在より約4,200名少なることが予想されている。
- 「競技力を高めたい」、「楽しくやりたい」、「いろいろな種目をやってみたい」などニーズが多様化している。
- 担当している部活動の指導経験年数が、3年未満という中学校の教員も増えてきている。

●運営体制図



令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

佐賀県佐賀市

●地域における現状・課題

- ・本市では、令和5年5月現在、全18校において運動部157部、文化部30部に約7割（約4,000人）の生徒が参加している。加入率は約71%である。
- ・多くの教員が休日にも参加して活動している。しかし、部員数の減少による廃部・休部など、活動の制約や、子どもの選択の幅の減少が進んでいる。
- ・競技によっては、合同チームが増加しており、現在、軟式野球、サッカー、男子ソフトテニス、男女バレー、男女卓球で単独校として大会に出場できない学校がある。
- ・令和5年5月に実施した中学校教職員対象のアンケートでは、地域移行後も、引き続き休日の指導に参画する意欲のある教員は全体の約25%であった。

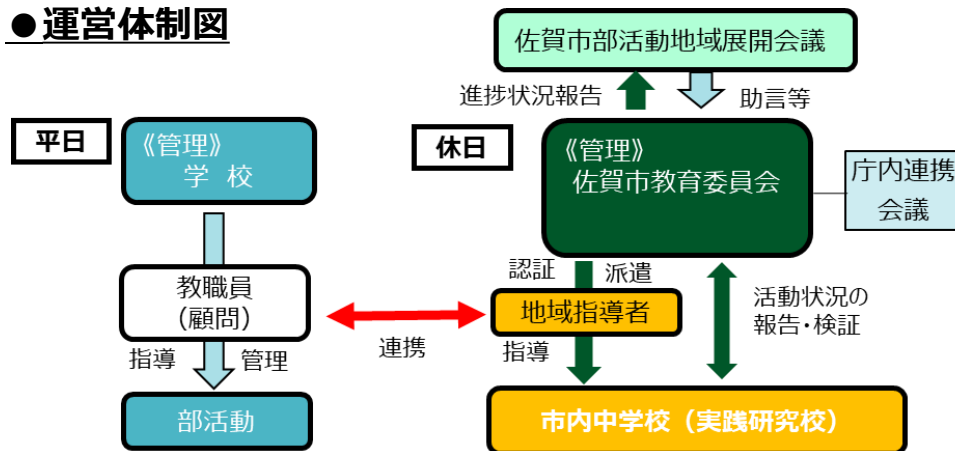
●取組事項の概要

- ①佐賀市部活動地域展開会議を設置（学識経験者、地域スポーツ団体の代表者、保護者、教職員＋アドバイザー、オブザーバー）
- ②「地域クラブ活動移行統括コーディネーター」として前中学校長を任用
- ③3パターンの実証事業で効果・課題を検証
 - ・地域連携型モデル（単独校型）：（男子バレーボール）城西中学校
 - ・地域連携型モデル（複数校型）：（サッカー）諸富中学校・東与賀中学校・城西中学校
 - ・地域クラブ活動型モデル：（カヌー）北山中学校

●取組の成果、特に工夫した点等

- ①全国の中学生と比較した佐賀市の中学生の実態から課題抽出し、地域展開の方向性を整理することができた。
- ②ステークホルダーである学校現場及び生徒の実態把握、各部活動の保護者会、地域指導者、関係団体への地域展開事業周知を進めることができた。
- ③3つの実証事業それぞれで休日等の地域指導者による指導への生徒満足度が高く、専門外の教職員の負担軽減につながった。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- モデル校：諸富中学校・東与賀中学校・城西中学校（合同チーム）
- （1）運営類型：市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
 - （2）運営主体：佐賀市教育委員会
 - （3）種目：サッカー
 - （4）指導者の主な属性：公認スポーツ指導者、教師の兼職兼業（競技指導経験者）
 - （5）1か月あたりの平均的な活動回数：4回程度
 - （6）主な活動場所：諸富中学校、東与賀中学校
 - （7）主な移動手段：自転車
 - （8）1人あたりの参加会費等（年額）：0円/年
 - （9）1人あたりの保険料：生徒各自加入／指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

佐賀県多久市

●地域における現状・課題

- 近年、後期生徒数の減少が加速化するなど深刻な少子化が進行しており、単独校での試合出場が困難。持続可能性という面で厳しさ増。
- 部活動への加入率57.3%。「やりたい部活が学校にない」と考える生徒の存在。
- 競技経験のない教師が指導（62.2%）せざるを得ず。休日を含めた運動部活動の指導も求められ、教師にとって負担感（67.6%）有り。
- 既存の総合型地域スポーツクラブ（多久スポーツピア）との連携が不十分。

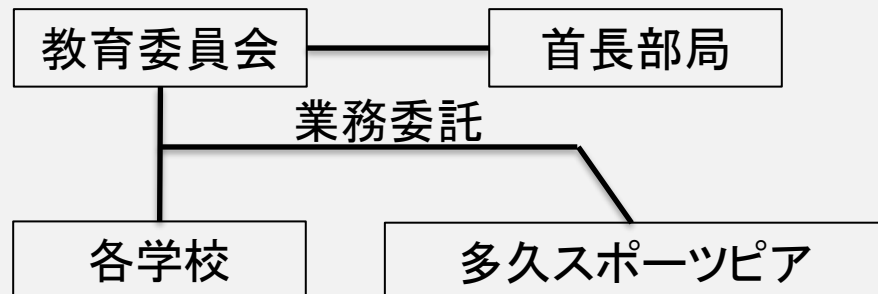
●取組事項の概要

- ・多久スポーツピアとの協議や支援等の実施。多久スポーツピアへの指導者登録の実施し、指導体制や事故対応の確立を図る。
- ・地域指導者の発掘・確保に向けて、継続的な取組を行う。
- ・地区中体連や各競技団体への登録方法や大会参加規定について、地域スポーツクラブが参加しやすくなるように働きかけを行う。
- ・地域スポーツクラブの円滑な活動支援に向けた取組を行う。（スクールバス、施設利用に関すること等）

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・多久スポーツピアへ「運動部活動連携サークル」を設置し、入会しやすい体制を整備して、保護者と連携して指導体制や事故対応の確立に努めた。
- ・部活動指導員や外部指導者の中から、地域指導者の発掘・確保につなげたケースを見出した。
- ・地域クラブとして、サッカー部が中総体に出場することができた。バレーボール部の大会参加に係る合同チームの在り方について、協会の意見を求めることができた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営主体：保護者会
- (2) 種目：サッカー
- (3) 指導者の主な属性：地域指導者（部活動指導員）
- (4) 1か月あたりの平均的な活動回数：14回程度
- (5) 主な活動場所：多久市立東原庁舎中央校、西多久多目的運動広場
- (6) 主な移動手段：スクールバス
- (7) 1人あたりの参加会費等（年額）：38,000円/年
- (8) 1人あたりの保険料：生徒800円/指導者1,850円

令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業 運動部活動の地域移行に向けた実証事業 成果報告書（概要）

佐賀県基山町

●地域における現状・課題

- ・ 町民のスポーツ活動に対する意識は高く、特に野球やソフトボール、バレーボールについては、地域の活動も盛んに行われており、大会等が通年で行われている。
- ・ 基山町中学生のスポーツ活動の多くは部活動に依存している。・教職員のライフワークバランスの視点から、部活動改革の必要性が高まっている。
- ・ 遠方のクラブに高額な費用をかけて通う生徒もいるが、町内でスポーツに取り組む生徒を育成できるシステムの構築が望まれる。

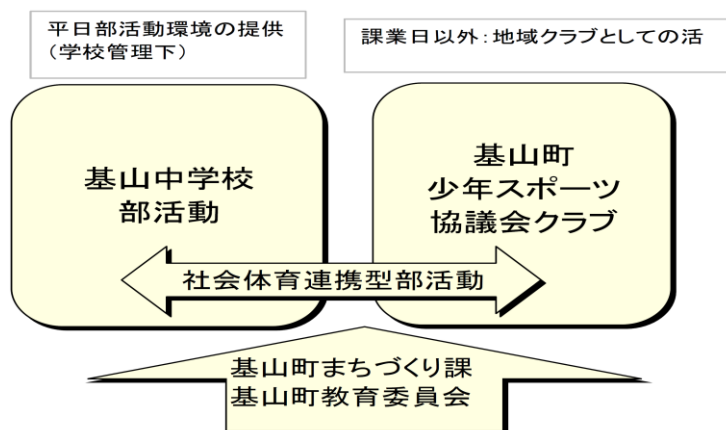
●取組事項の概要

- ・ 学校部活動の中に地域指導者が参入していくことで、地域連携を進めていく
- ・ 今後、社会体育連携型の活動のための運営主体を構築できそうな部活動を順次移行へと着手していくことを目指し、9部活動を指定した。
- ・ 中学生スポーツ団体を統括するための組織が必要となるため、昨年度より「基山町少年スポーツ育成協議会」が支援をし、今後の体制整備の構築図ろうとしている

●取組の成果、特に工夫した点等

- ・ 兼業をする教師も含め指導者を確保し、少年スポーツ育成協議会に指導者として登録し、地域移行を目指す部活動に指導者を派遣した。
- ・ 責任の主体が変わることで、部活動改革や部活動地域移行の道筋についてはかかわった部活動の保護者には周知することができた。
- ・ 本事業にかかわる軟式野球が今年度、「きやまベースボールクラブ」として地域スポーツクラブ活動をスタートさせた。

●運営体制図



●地域クラブ活動の概要（代表的な取組例）

- (1) 運営類型：体育・スポーツ協会運営型
- (2) 運営主体：基山町少年スポーツ育成協議会
- (3) 種目：野球、バレーボール（男女）、ソフトテニス（男女）、卓球（男女）、柔道、空手
- (4) 指導者の主な属性：地域指導者、教員の兼業
- (5) 1か月あたりの平均的な活動回数：各クラブ月6回程度
- (6) 主な活動場所：学校施設、公共施設（町立体育館）
- (7) 主な移動手段：自転車等
- (6) 1人あたりの参加会費等（年額）：各クラブ24,000円程度（月2,000円程度）
- (7) 1人あたりの保険料：生徒800円／指導者1,850円